

9月23日まで筆の里工房で開催中の「ジミー大西作品展」。7月20日のオープニングに来町されたジミー大西さんにお話を伺いました。

## 絵描き

# ジミー大西

筆の里工房で「ジミー大西作品展」が開催されることについて、現在の心境をお聞かせください。

— 広島で作品展をするのが、今回初めてなので、たくさんの人に見に来てもらえることを願っています。広島の方が自分の作品をどう思われるのが楽しみです。



▲パケーション1997

筆に対するジミーさんの思いをお聞かせください。

— 筆はものすごく大切なものです。使えなくなっても捨てられない程、愛着があります。でも、自分に合う筆になかなか出会えないので、探すのにとても時間がかかったりします。だから、そんな筆を見つけたときは、すごく嬉しいです。

タレントから画家に転向されましたが、以前から絵は好きだったのですか？

— 絵にはあまり興味がなかったんです。ただ、子どものときに、テストの答案用紙の裏に絵を書いたりしていたんですけどね。答案用紙の後ろには必ず絵がありました。

先生は答案用紙の裏に四重丸をつけて、「大変よく出来ました」と書いてくれました。



答案用紙の表にもう1つ丸（0点）があるから、裏表を合わせて全部で五重丸！（笑）

違つ分野で活動する決意をするには、多くのエネルギーが必要だったと思います。

— エネルギーというよりも、難しく考えないことですね。やっぱり、したいことをした方がいいと思うんですね。

「食べていくのをどうしよう」とかそういう難しいことを考えていたら、踏ん切りがつかなくなっただけです。

ジミーさんが作品を通して表現したいことは何ですか。

— お笑いをやっていきたいから、「皆さんに喜んでもらいたい」

ということがまず一番にあります。上手いとかそういうことは全く思っただけなく、僕の作品を見て何か感じてもらえたら嬉しいです。

今後はどのようなことに挑戦していきたいですか？

— 複雑なイメージを頭の中で描いているんですが、なかなかそのとおりにできないので、それに近づけていきたいです。故岡本太郎さんから以前「キヤ

ンパスからはみ出すような絵を書きなさい」という手紙を頂いたんです。それはとても難しいことで、キャンパスの中に「収まっている」絵を、もっと大胆に「はみ出していく」というような深い意味があるんです。だからそんな絵を描けるように、もっと追求していき、もっと技術を身に付けるように努力していきたいと思っています。

僕はいつも筆で色をぬります。その時侯にあた筆がなかなかつかりません。何かの時侯は、さくさく筆がつかりませんが、でも何回も使っているうちに、おめなくなってしまう。

その時は、淋しく思いますが、いつも筆は板前さんの包丁のようになじりに慣習して、だじじにあつかひます。

僕にとて、筆がまれば絵のタツ子も少しは変わります。

この頃、たくさん筆を使って絵を描くので、手くびも強くなりました。

キャンパスに色がどきどきするのびる事を、思い一枚の絵を描きます。

ジミー大西

▲ジミー大西さんの直筆メッセージ（筆の里工房に展示しています）

最後に、熊野町の皆さんに  
メッセージを頂けますか？

―筆作りで有名な熊野町なので、これからもずっと筆文化を受け継いでいってほしいなと思います。筆の文化というものは、なかなかないじゃないですか。だから、筆を使う僕のような絵描きのためにも、いい筆を作り続けていってほしいなと思います。

ありがとうございました。

ジミー大西さんの絵を見ると、思わず微笑みがこぼれそうな優しい気持ちになりました。インタビュを終えて、ジミーさんの温かい人柄と、絵に対する真摯な姿勢が、一枚一枚の作品に込められているからだと感じました。

作品展初日に来場された方も、「色がきれいな！」「ジミーさんの親しみやすさが絵にも表れているようです。」「見ていると不思議な気持ちになります。」「とても楽しい気分になりました。」「など、感想を話してくれました。

ジミーさんの「人に喜んでほしい」という願いは、見に来られた人たちに十分伝わっているようでした。

※「ジミー大西作品展」は、

9月23日(祝)の筆まつりの日

まで筆の里工房で開催中です。

## シリーズ 市町村合併 12

合併問題は、時限立法である合併特例法の期限（平成17年3月）までの合併に向けて、全国各地で動きが活発化しています。

広島県でも呉市と下蒲刈町の合併協定調印が行われたのははじめとして、近隣では、海田町が広島市と黒瀬町が東広島市とそれぞれ任意の合併協議会を設置するなど合併に

向けた動きが進んでいます。

また、住民の動きとして、府中町では県内で初めて住民投票が実施されたり、各地で合併問題についてのシンポジウムの開催や住民投票条例の制定に向けての署名活動などが行われています。

本町では、合併問題を巡る主な動きとして、左表のとおり取り組んでいます。

### ＝ 熊野町における合併を巡る主な動き ＝

年 月	内 容
昭和45年8月	広島市から合併の申し入れ
平成12年1月	呉市から合併の申し入れ
平成12年8月	呉市から任意協議会の申し入れ
平成12年9月	呉地域広域行政研究会を設置 構成団体 呉市、熊野町、坂町、黒瀬町 構成員 首長、助役等、議長、副議長
平成12年11月	広島県が市町村合併推進要綱を策定
平成12年12月	熊野町議会 合併問題調査特別委員会を設置
平成13年1月	「シリーズ市町村合併」を掲載
平成13年5月	熊野町役場 合併研究プロジェクトを設置
平成13年6月	広島市・熊野町合併問題等調査研究会を設置 構成団体 広島市、熊野町 構成員 職員
平成13年7月	安芸郡陸地部3町合併調査研究会を設置 構成団体 海田町、熊野町、坂町 構成員 町長
平成13年11月	広島市・安芸郡陸地部3町合併問題等合同勉強会を設置 構成団体 広島市、海田町、熊野町、坂町 構成員 助役等
平成14年3月	合併パンフレットを全世帯に配布 合併問題に関する住民アンケートを実施 対象者 2,500人 回収率 48.1%
平成14年5月	呉市・熊野町・坂町合併問題等調査研究会を設置 構成団体 呉市、熊野町、坂町 構成員 助役等

合併問題については、昭和45年に広島市から合併の申し入れがありましたが、それ以降は、特に合併を巡る動きはありませんでした。

平成11年7月、「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」（地方分権一括法）の成立を契機に地方分権を実行するために、行財政基盤の強化を図る必要があり、それには市町村合併が最も有効な手段として注目され、現在に至っています。

近隣市町との調査研究会では、主に行政サービスの比較を中心に進めています。これらの研究会の成果につきましては、住民の皆さんに広報やホームページを通してお知らせしていきます。

なお、各公民館、中央ふれあい館、各地域健康センターに「現況比較資料」を備え付けていますので、ご自由にご覧ください。（企画課）